

『は』「頒布物」は「商品」にあらず

コミケットでは、各サークルが参加者に同人誌などのアイテムを提供することを『販売』とは呼ばずに主に『頒布（はんぷ）』という言葉を使う。カタログでも見かけるこの言葉は【品物や資料などを、広く配ること】という意味だ。

『商品』を『販売』するならばその品物は有料で、金銭と引き換えに相手に渡ることになるが、コミケットでは少し事情が異なるために、より様々な形態を包括できるこの『頒布』という言葉が使われるようになったのだ。

各サークルは、テーブル（サークルスペース）の上に自分の作品を並べているが、それらが『商品』ではなく『頒布物（はんぷぶつ）』ということになる。

サークルは自分の作品を広く配布し、多くの人に手にしてもらいたくて出展しているわけだが、多くはその対価として、印刷代の一部などを価格として設定している。その際、どんなアイテムにどんな価格を付けるかはサークルに任せられているため、例えば無料の物もあれば、とても高価な工芸品のような物もある。しかし、両方とも、それぞれのサークルの『作品』であり、付けられた値段で優劣が決まる性質のもの（高級品は高い、とか安かろう悪かろう、のように）ではない。

作る側が、そしてそれを欲しいと思う人がその価格に納得できればOKで、その意味でコミック『マーケット』とは言っても商品売って利益を得る、という商売とは少し違うことが行われているのだ。

この頒布という概念は明確にルール化されているわけではないが、コミケットの参加者ならば知っておいたほうがよいだろう。

『に』荷物は、コンパクトに!

丸一日がかりのコミケット、それも寒い時期で待機もあって、となれば、どうしてもアレもコレもと用意して行く必要性を感じてしまうだろう（そして実際、準備は必要なのだ）。必要そうな物を一式用意すると、結構な量と重さになる。日頃重い物を持ち慣れていない人では、それらを持って行くだけでも一苦勞だ。しかもそれでひたすら歩き回る上に戦利品も増えていくわけで、重い荷持はアナタの体力を容赦なく削る。慣れない参加者にとって、これはかなりキツイ。

というわけで、自分の体力に合わせて、事前準備の段階で持って行く荷物はギリギリまで削ろう。大仰な防寒装備が負担ならそれが必要のない時間に会場へ行けばいい。実は冬は飲料を多量に持ち歩かなくてよい分、会期中の会場内だけで過ごすならかなり荷物を減らすことが可能だ。

荷物はコンパクトなリュックなどに入れて背中にびっちり背負ってしまえば、重さを余り感じなくてすむ上に、疲れにくい。あとは戦利品用の大きな空っぽのバッグを用意すれば準備は万全。

逆になんでもかんでもキャリーバッグ類に詰め込んで行くと、混雑した会場内を抜けるのに苦勞する上に往復の階段や段差でもいちいち時間をロスすることになる。結果的にあまり楽にならない。荷物はコンパクトに、自分で背負える範囲にまとめよう。

冬コミ用持物リスト comi-Navi.comの『過去の記事など』コーナーより。



●冬ほど靴が物を言う

コミケット用に新しく靴を買うなら、軽登山靴（ライトトレッキングシューズ）をオススメする。長時間荷物がかついで歩きまわり、冷たい地面に立ちつくし、階段を登ったり降りたりするコミケットの1日はほぼ山歩きに匹敵する。当然、山歩き用の靴が持ってこいなのだ。専用に作られた靴なら足をしっかり包み、足首を支えて疲労を低減してくれるだけでなく、厚い丈夫な靴底は断熱効果も高く地面からの冷えも大分防いでくれる。もちろんどうせならその中に履く靴下も高性能な物にしてみよう。

ウールや化繊の厚手の防寒靴下を履けばより暖かく、疲れにくい。

なお、靴を買うときは靴下も持参して一緒に履き、少し歩いてみて選ぼう。また購入した靴は、最低1日、事前の履き慣らしをしておくと良い。

少し値段は張るが、一日を支える靴はそれだけ大切なのだ。

